

地域活性化 京都府福知山市 「みわ・ダッシュ村」から という「遊び」 79 山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動しながらオーガニックレストランを経営。食材調達のため畑も始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。現在みわ・ダッシュ村副村長。

小さな海を守って生きる 漁師さんとの出会い

海が好きと山が好き、類は友を呼んだ。
食を通じて知り合い、協力しあう——
地域を元気にしようとする楽しい「遊び」が
またひとつ始まった。

類 は友を呼ぶと言いますが
最近子たちが知り合った

漁師さん

まだ25歳ですが

とにかく海が大好き。

3歳から

おじいちゃんの船に乗り始め

学校にはあまり馴染めず

ほとんど海の上で過ごし

中学生の頃にはもう漁師になると

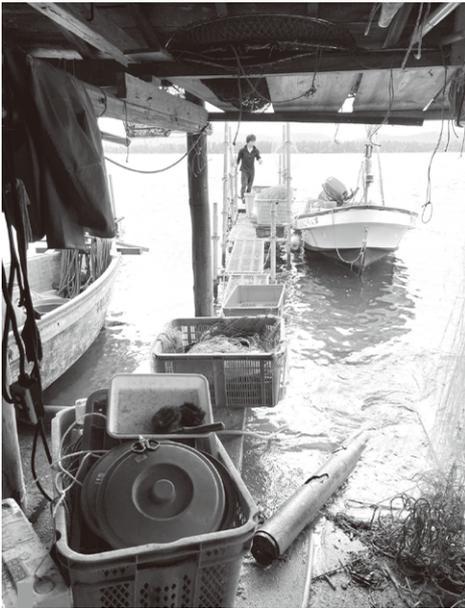
決めていたそうです。

そして18歳になった頃

漁師だったおじいちゃんが

漁師を辞めたのをきっかけに

船舶の免許を取得



おじいちゃんから受け継いだ小さな船。
これで全てをこなすそうです。



漁師さんからいただいた
イシガニとワタリガニ。
挟まれたら指ちぎれますよとのこと……

代替わりのような形で
漁師になったという
経歴の持ち主。

彼が漁をするのは京都府北部

天橋立によって宮津湾から

仕切られてできた阿蘇海という

たった500ha

最深部14mという

とても小さな内海。

そんな小さな海で

漁師として食べていけるの？

という素朴な疑問がわきますが

お話を伺うと

そんな心配は何処へやら

春はクロダイ、スズキ、ナマコ

夏はワタリガニ

冬はフグ。

とても小さな船ですので

獲れる量は限られています

が

「とにかく美味しい魚を出荷した
い」

「この小さな海でなんとか生計を
立てられるようになりたい」

という思いを胸に

さまざまな情報を集め

血抜き、神経締めなど勉強に勉強

を重ね

料理人の要望を聞きつつ

一匹一匹丁寧に処理することで

市場に出荷する何倍もの

値段がつき

全国の有名料理人さんに

直接販売されているとのこと。

知り合ったきつかけは

行きつけの魚屋に出荷され

ていた彼のスズキを

購入させていただいた時

あまりの美味しさに驚き



食事の後の記念撮影。
左から2番目が漁師さん。
放っておいたら朝まで話していたかも。



早速試作した刺身の冷凍ツケ。
解凍してそのまま食べられます。
魚の処理が良いのと包丁の切れ味が良いので
出来立てと変わらぬ美味しさ！

その理由を知りたくなって
その魚屋さん
連絡先を教えてください
次の日直接訪ねてきました。
お会いしてわかったことは
うちの子たちが
山や川が好き
というのと同じように
とにかく海が好きということ。
そして漁をしながら
その大好きな海を守って
そこで生活していきたい
というもの。
小さな海ですが
いつもの魚が
一番美味しくなるのか

ここにしかないものってなんだ
自分ができることはなんだ
自分と阿蘇海のことを深く深く知
り尽くすことで
勝機はおのずと
見えてきたそうです
僕らが訪ねて行った時
スズキの他にイシガニという大き
な銚子を持ったカニがありました。
挟む力が非常に強く
網に入ると
網を切ってしまうほど。
しかしカニ身は少なく
市場に出しても
商品価値はつかないとのこと
最近の漁師さんは

みんな捨ててしまうのですが
おいしいちゃんが漁師だった頃には
味噌汁にするともものすごく美味し
い出し汁が出るとのこと
地元の人の間ではちよつと有名。
中には
味噌汁するならイシガニでないと
だめだ！
というこだわり強いおばあちゃ
んもおられるそう。
ち ようど良いタイミンで
次の日うちのレストランに
予約をいただいていたので
コースの締め
そのイシガニを使わせていただく
ことにしました。

地元の人と言うように
出し汁は濃厚で複雑な味わい。
我が家の自家製味噌が
よく合いました。
そしてそのコースに
漁師さんもご招待。
仕入れさせていただいた魚を
うちの子たちの包丁で
料理したものを食べていただき
情報交換することで
お互いの品質向上につながればと
思っていたことでしたが
食事終了後も
子たちと熱心に語り合い
イシガニのような未利用魚に
商品価値をつけたりするような取
り組みや
包丁の切れ味と最新の冷凍技術を
使った冷凍刺身など
新たな商品開発にまで話は及んで
いました。
人 口が減少の一途を辿る小
な海と小さな山の集落。
そんなところに暮らす若者同士が
食というものを通じてつながり
協力し合って地域を元気にする
新しい何かを生み出せたらと思
います。
類が友を呼び
また楽しい遊び仲間が
一人増えました。